

文献 [2, 3] はこの分野で最も広く読まれている基礎文献であり，大学院に入学するまでに必読である<sup>\*1</sup>．特に平安時代の文化との関わり [3, p. 25]，英語と日本語の言語学的関連からの考察 [3, pp. 30–35] は興味深い．また，文献 [4] は新たな分野を拓いた最初の論文であり，当初の問題意識を知るうえで重要である．

## 参考文献

- [1] B. フー, Q. バズ, C. クー. *foobar* の誕生. Trans. by 保毛太郎. 民明書房, 1995.
- [2] Bar Foo, Qux Baz, and Corge Quux. “The birth of foobar”. In: *J. Foobar* 255 (1990), pp. 19–454.
- [3] 保毛太郎. “ほげと千年紀—foobar の視点から—”. In: ほげ学会論文誌 100 (2000), pp. 20–42.
- [4] 保毛太郎, 比世次郎, 布我三郎. “ほげとびよの意味論”. In: ほげ学会論文誌 101 (2001), pp. 53–58.

---

<sup>\*1</sup> [2] は長大な論文であり，和訳が単行本で出ている [1]．